

第 146 周年甲府一高同窓会定期総会来賓 東京同窓会会長 祝辞

【冒頭：祝辞と感謝】

ただいまご紹介いただきました、東京同窓会会長の清水昭でございます。

本日、ここに伝統ある山梨県立甲府第一高等学校、第 146 周年同窓会定期総会が末木浩一同窓会長の統率のもと、教職員の皆様方の陪席を賜り、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、本日の運営を担ってくださっております平成 5 年、および平成 22 年卒業の望月直樹実行委員長はじめ当番幹事の皆様の多大なるご尽力に経緯を表します。

【地球沸騰化とプラネタリーヘルス】

さて、現在私たちは、単なる「温暖化」を超えた「地球沸騰化」という未曾有の環境危機に直面しています。私は医師として日々医療の現場におりますが、今、改めて痛感しているのは「プラネタリーヘルス（地球の健康）」という概念です。すなわち「地球の健康」が損なわれれば、私たち「人間の健康」もまた成り立たないという事実です。

かつて私たちが多感な時期を過ごした、山紫水明の地、山梨の豊かな自然、そして強行遠足で駆け抜けたあの美しい山河は、決して当たり前存在するものではなく、私たちが守るべき生命維持装置そのものであると思います。

【母校の探究活動と東京同窓会の絆】

こうした地球規模の課題に対し、母校の現役生徒たちも力強く動き出しています。

一昨年（令和 5 年）11 月、本校探究科が主催し、山梨でグローバルサウスについて考える国際会議が開催されました。記憶に新しい方も多いかと存じますが、当時の安達達校長より協力を依頼され、東京同窓会からも各分野の専門家である志村昌也顧問（貧困）、中嶋文夫副会長（外交）、島田敏男会員（戦争）が各分科会に参加し、生徒たちと熱い議論を交わしました。

【一高精神と未来への責任】

校歌にもある、「天地の化育を賛く」のように、誠を尽くし、万物の成長を助け、自然淘汰調和するように説いています。

本日お集まりの皆様には、この「地球と人間の健康」を自分毎として捉え、一高で培った「日々新たな精神」で、より良い未来を切り拓いていっていただきたい。

【結び】

東京同窓会といたしましても、首都圏の地から母校を支援するとともに、持続可能な未来への取り組みを支えるネットワークを広げていく所存です。

最後になりますが、大久保雅司校長率いる山梨県立甲府第一高等学校の益々のご発展と、本日ご臨席の皆様のご健勝、そして私たちの母なる地球の安寧を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和 8 年 5 月 9 日

東京同窓会会長 清水 昭